

常任理事就任挨拶

沖縄県医師会 常任理事 中田 安彦



このたび沖縄県医師会常任理事に選任されました医療法人安心会理事長、愛聖クリニック院長の中田安彦です。

安里哲好会長、宮里達也副会長、田名毅副会長および諸先輩理事、監事の先生方のご指導ご助言を頂きながら微力ではありますが、医師会の皆様方、県民の皆様方のお役に立てる様に頑張っておりますので宜しくお願い致します。

さて、私は壺屋小学校、神原中学校、那覇高校を卒業し、昭和61年に宮崎医科大学を卒業し平成8年に愛聖クリニックを開業し平成11年に医療法人安心会を設立しました。

現在、十数か所の医療・介護・福祉施設を開設し、まだまだ発展途上の状況です。最近の大きな問題は人材不足と次世代社員の育成そして後継者の養成です。

ところで、医師会活動としては中部地区医師会で学校医・予防接種担当理事を二期（4年間）、財務担当副会長を五期（10年間）そして安里哲好会長の跡を継いで第10代中部地区医師会会長に就任し、今期で七期目になります。青年医師が気が付けば若輩ながら県内地区医師会長で最長老となってしまいました。

今期から地区医師会会長の在任のまま安里会長の推薦で県医師会常任理事となり、二足の草鞋を履くこととなりました。幸いなことに数年前から中部地区では副会長3名、常任理事2名体制となり、更に、毎年働き者の先生方が理事その他の役員となって頂き加えて事務局を強化することにより以前に比較して地区医師会長業務の軽減化が実現しております。

ただ、県医師会の業務は、未知の分野なので県医師会のスタイルに合わせながら、自分の権限内で仕事のしやすいシステム・体制作りをしてつつ県医師会、地区医師会の二足の草鞋で転ばないように注意しつつ皆様の役に立つよう活動していきますので皆さん是非お教え下さい。

蛇足（医師会活動で得たもの）

私は、医師会役員は、ボランティアでありメリットよりもデメリットが多いと感じていました。しかし、長く役員を務めていく内に自分が変わっていくことを自覚しました。具体的には世間を見る目が広くなり、自分自身が成長し、周りの人達が幸せになることを願い自分自身が幸せを感じるようになりました。

自分自身の成長のきっかけとなった一例を紹介します。

県医師会の新年会の席で「中田君、君ね、話し方を変えたほうが良いよ。君の話は筋もいい、理屈も通っていてとても良い話をする。素晴らしい！しかし、話し方が良くない。人が話した後「だけど」「しかし」を使い過ぎる。本当に必ずというぐらい「だけど」逆説を話の初めにもってくる。否定しているつもりではなくても相手は否定されたと思ってしまうよ。それではどんな良い提案をしても誰も付いて行かないよ。」と先輩の先生から箴言を頂きました。

白覚していない自分はまずビックリ。帰りの車でその言葉を反芻して「確かに自分の話し方は相手を否定してあるいは相手の感情を害して話しを始めることが多い。これからは、まず相手の話を聞いて共感できる部分から会話を始めるようにしよう（多くの方は当たり前と思われるかもしれませんが、当時の自分はそれまで考えも及びませんでした）」と言う思いに至りました。

その先輩のおかげで新しい世界が広がりました。

結びに、至らない私を導いて頂いた医師会の先生方、玉城信光先生、名嘉勝男先生、安里哲好先生、金城進先生、當山護先生、真栄田篤彦先生、故宮城信雄先生（出会い順）他多くの先生方に感謝申し上げます。